

石巻山にかかる宗教と太陽信仰

— 東三河地方の石巻山と神社仏閣の位置関係の考察 —

民族学考古学専攻 阿部研究会 4年 竹内誠治

<要旨>

愛知県豊橋市にある石巻山は、古来、東三河地方に住む人々から、神の山として崇められてきた霊山である。この山の西方に広がる豊橋平野には、石巻山の山頂の磐座を基点として、一定の角度を有して配置された神社群と寺院群が存在し、それらの中には、二至二分の日に、石巻山の山頂から太陽が昇るのを見ることができる位置に建てられたものもある。しかし、石巻山とこれらの神社仏閣の位置関係の学術的な調査・研究は未だに行われていない。

そこで、本研究では、二至二分の日に、石巻山の山頂からの日の出を見ることができる位置に建てられたと考えられている神社仏閣と、石巻山の山頂の磐座を基点として、それらと同じ角度、及び、方向に建っている神社仏閣、城、古墳などの史跡に注目し、それらの地理的な状況と歴史的な状況を調べて、考察した。

その結果、かつて、この地域で、真言宗の勢力が、石巻山の山頂の磐座と二至二分の日の出の遥拝所を結んだ直線とその延長線上で、石巻山の眺望、当時の交通事情、水利などを勘案した位置を選定し、本研究で検討した歴史的建造物の大半を築き、政治色の濃い宗教的活動を行っていたことが判明した。

<目次>

- (序) 研究目的
- 第一章 研究方法
- 第二章 研究対象地域の地理的環境
 - 1. 豊橋平野周辺の地理的環境
 - 2. 石巻山の特徴
- 第三章 先行研究の再検討
- 第四章 考察
 - 1. 豊橋平野における神社仏閣、その他の史跡の地理的な状況
 - 2. 豊橋平野における神社仏閣、その他の史跡の歴史的な状況
 - 3. 歴史的建造物の設置に用いた可能性のある測量法とその器具
- 第五章 まとめ
 - 1. 結論
 - 2. 本研究の問題点と今後の課題

表1： 豊橋平野における神社仏閣、その他の史跡の地理的な状況

石巻山山頂の磐座を基点とした東西線を0度とした直線からの角度	神社名、寺院名、 (城名、古墳名)	立地	標高	石巻山山頂の磐座からの直線距離	石巻山可視	近接する主要街道	その他
NW60° (7ヶ所)	砥鹿神社	河岸段丘	約30m	約7,400m	○	伊那街道	
	稲垣院	河岸段丘	約12m	約6,030m	○		
	黒谷神社	河岸段丘	約20m	約3,900m	×	別所街道	
	白山神社	山腹	約35m	約3,750m	×	別所街道	
	馬越長火塚古墳	台地	約30m	約3,450m	○	別所街道	
	長楽寺	河岸段丘	約35m	約2,000m	○	本坂道	
	東光寺	山腹	約70m	約780m	○	鎌倉街道	冬至の日の出の遥拝所
NW2.5° (7ヶ所)	素盞鳴神社(下佐脇)	中州	約3m	約12,850m	○		
	円通寺	河岸段丘	約6m	約9,250m	△	旧東海道	旧東海道の豊川右岸の渡船場
	素盞鳴神社(大村)	中州	約4m	約6,500m	○	豊川道	
	光道神社	自然堤防	約6m	約5,580m	○	信州街道	春分・秋分の日の出の遥拝所
	天神社址	河岸段丘	約10m	約2,825m	×	別所街道	
	妙本陵社址	山上	約130m	約1,550m	△	鎌倉街道	
	石巻山城址	山上	約300m	約250m	○		明治維新以前の石巻神社の境内
SW20° (9ヶ所)	坂津寺	河岸段丘	約10m	約9,625m	△	旧東海道	旧東海道の豊川左岸の渡船場
	羽田八幡宮	河岸段丘	約8m	約8,000m	△	旧東海道	
	悟真寺	河岸段丘	約10m	約6,950m	△	東海道	吉田城内
	吉田城本丸址	河岸段丘	約10m	約6,400m	○	東海道	
	豊城神社旧址	河岸段丘	約10m	約6,300m	△	東海道	吉田城内
	秋葉神社旧址	河岸段丘	約10m	約6,200m	△	東海道	吉田城内
	安久美神戸神明社旧址	河岸段丘	約10m	約6,100m	△	東海道	吉田城内
	平尾八幡宮	台地	約20m	約4,125m	△	別所街道	
	東頭神社	河岸段丘	約40m	約1,250m	○	鎌倉街道	夏至の日の出の遥拝所

表 2 : 豊橋平野における神社仏閣、その他の史跡の歴史的な状況

石巻山山頂の 磐座を基点と した東西線を 0度とした直 線からの角度	神社名、寺院名 (城名、古墳名)	創建年代	創建者	宗派	主祭神、本尊	神紋、寺紋	留意すべき設置物
NW 60° (7ヶ所)	砥鹿神社	701年	草鹿砥公宣		大己貴命	亀甲紋、菊花紋	
	稲垣院	1539年	稲垣藤七郎	曹洞宗	聖観音座像	抱き茗荷	弘法大師座像、巴文様の瓦
	黒谷神社	不明	不明		罔象女命	桃紋	巴文様の瓦
	白山神社	不明	不明		白山姫命	桐紋	
	馬越長火塚古墳	6C後半	不明				
	長楽寺	1357年	蒲済和尚	臨済宗	阿弥陀如来	笹りんどう	弘法堂、弘法大師座像
	東光寺	12C後半	不明	臨済宗	薬師如来立像	不明	弘法大師座像、遥拝石
NW 2.5° (7ヶ所)	素盞鳴神社(下佐脇)	1749年	白井次郎太夫		素盞鳴尊	木瓜紋	
	円通寺	1726年	傑仙和尚	曹洞宗	観世音菩薩	立葵	弘法大師座像
	素盞鳴神社(大村)	1531年	近藤権右衛門		素盞鳴尊	(鉾)	遥拝石
	光道神社	不明	不明		来名戸之塞神	菊花紋	配石遺構
	天神社址	19C後半	横井氏		菅原道真	不明	
	妙本陵社址	14C前半	不明		小松天皇	不明	
	石巻山城址	14C前半	土岐国行				
SW 20° (9ヶ所)	坂津寺	1005年	祐深法印	真言宗	十一面観音立像	巴、五三桐	弘法大師座像
	羽田八幡宮	673年	不明		誉田天皇	巴	遥拝石
	悟真寺	1366年	善忠寂翁和尚	浄土宗	弥陀三尊立像	葵の御紋	弘法大師座像
	吉田城本丸址	1505年	牧野古白				
	豊城神社旧址	不明	不明		源頼政		遥拝石
	秋葉神社旧址	不明	不明				
	安久美神戸神明社旧址	940年	朱雀天皇		天照皇大神		
	平尾八幡宮	不明	平尾氏		八幡大神	なし	
	東頭神社	668年	不明		素盞鳴尊	木瓜紋	遥拝石、秋葉神社

備考
三河国の一の宮。祭神の大己貴命は石巻神社の祭神と同じ。明治元年に、宮司の草鹿砥氏は、羽田八幡宮の宮司の羽田野氏とともに、皇学所の講師を務めた。
八楽四郡弘法大師霊場の札所。
宮司の鈴木氏は、白山神社の宮司も兼任。
宮司の鈴木氏は、黒谷神社の宮司も兼任。
直径約17mの横穴式石室は、愛知県下最大規模。
八楽四郡弘法大師霊場の札所。弘法堂は、長楽寺が寺窪の地から当地に移転する以前からあった。
八楽四郡弘法大師霊場の札所。 石巻山城主、高井主膳正（土岐国行）の菩提寺。 本堂の裏の床下に巴紋と菊花紋の入った瓦が保存されている。
木瓜紋の神紋は、東頭神社の神紋と同じ。明治維新以前、神社の鍵は、創建者の白井氏が管理していた。
旧東海道の「志香須賀の渡し」があった豊川右岸の平井の柏木の浜に隣接。
石巻神社の遷宮導師を務めた真言宗の法言寺（現在の赤岩寺）の法印が創建に関与。 宮司の白井氏は、光道神社と羽田八幡宮の宮司も兼任。
大正六年に、白井藤七氏が奉獻した石燈籠の穴を覗くと、正面に石巻山が見える。宮司の白井氏は、（大村の）素盞鳴神社と羽田八幡宮の宮司も兼任。
大正二年に、石巻神社の末社の篁矢神社に合祀。
祭神の小松天皇は、南北朝時代に、南朝側が立てた天皇。
南北朝時代に、後醍醐天皇によって三河国守護に任命された土岐国行（高井主膳正）が、城主となり、南朝側に付いて、北朝と戦ったが、敗北した。
石巻神社の遷宮導師を務めた真言宗の赤岩寺（法言寺）の末寺。 旧東海道の「志香須賀の渡し」があった豊川左岸の河岸段丘の先端の岬に隣接。
愛知県下の八幡宮の筆頭。宮司の白井氏は、光道神社と（大村の）素盞鳴神社の宮司も兼任。石巻神社第一鳥居に、明治時代の羽田文庫の石碑が建っている。
浄土宗藤田派の本山。吉田三カ寺の筆頭。 御市内弘法大師霊場の札所。 今橋町の悟真寺旧址と花田町の移転予定地も、SW20度の直線上にある。
東三河最大規模。歴代城主は、皆、石巻神社を手厚く保護している。1565年に、徳川家康入城。
伊勢神宮の末社。
東三河の秋葉神社の筆頭。平成18年に、東頭神社の境内に、遷宮。
東三河の神明社の筆頭。 石巻神社の遷宮導師を務めた真言宗の赤岩寺（法言寺）の法印が遷宮導師を務めた。
青陵街道（もと別所街道）建設時に、東に、約10m移動。
石巻神社の末社。木瓜紋の神紋は、下佐脇の素盞鳴神社の神紋と同じ。平成18年に、吉田城内の秋葉神社を境内に勧請。 稲荷社の瓦に巴紋が入っている。